

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070500614		
法人名	株式会社 SOYOKAZE		
事業所名	太田グループホームそよ風 1Fキンモクセイ		
所在地	群馬県太田市飯田町814-1		
自己評価作成日	2023年12月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.syzk.co.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	2024年1月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日頃から主治医・訪問看護・ご家族様との連絡を密に行う事で、徹底した情報共有が出来ている。お仕事や、遠方で中々面会が出来ないご家族様にはお写真入りの月報を郵送したり、お電話やビデオ通話を定期的に行う事で、ご家族様にもご入居者様にも安心していただき、信頼関係が築けている。毎日の口腔体操・上下肢体操・レクリエーションは個々のレベルに合わせてお声がけ、介助行う事で、全員が取り組み、その人らしく可能な限り自立した日常生活が送れるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人が職員研修や行方不明利用者の捜索対応等のリスクマネジメントを含めて組織的に仕組み作りをして、各施設の運営基盤を支えている。積極的にiPadやパソコンを活用して、職員の記録作業負担軽減を図ったり、利用者の内服薬を確実に行うためのツールアプリを活用したり、更にその業務結果を職員にフィードバックする仕組みも構築されている。社長から職員に対する励ましや職員間のチームワークを大切にする内容のメールが毎日発信され、利用者のケアについては、介護計画書の支援内容を、ケア職員が毎日、業務中に確認をして記録に残し、評価した内容を見直しする際には職員間で話し合う機会をもっており、ケアプランは、利用者の個性性を重視したものになっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が ○ 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が ○ 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070500614		
法人名	株式会社 SOYOKAZE		
事業所名	太田グループホームそよ風 2F ハナミズキ		
所在地	群馬県太田市飯田町814-1		
自己評価作成日	2023年12月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.syzk.co.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	2024年1月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

年齢差が大きく、ご入居者様1人1人が尊重した生活ができるよう支援することに重点を置いている。集団での体操やレクリエーションも行っているが、個別訓練にも力を入れており、歩行訓練、階段の昇降運動、脳トレプリント、園芸、日常生活動作の維持等個々にあった訓練を行う事で、その人らしく生きがいを持ち、可能な限り自立した生活が出来るよう常にご入居者様の立場に立ってサービスが提供できるよう心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

キンモクセイ

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念は毎日、社長メールに記載されており、社員全員が目に見えている。太田GHの理念は毎日の朝・夕の申し送りを行う場に掲示し、唱和する事で理念を意識し、実践につなげる努力をしている。	毎日朝夕の申し送り時に。職員で理念を唱和している。理念の「活き活き」は、自立支援の考えに立って、利用者が自分で出来ることを継続できることを目指しており、管理者から職員に説明をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所の方へのお声かけ、地区の民生委員さんや、区長さんと相談し、クリーン作戦等の地域の美化活動参加にて交流を深めていきたい。	事業所は、自治会に加入している。ここ3年間は、コロナ禍で交流が出来なかったが、今後、区長からの地域のクリーン作戦への参加の提案を受けて、近隣住民との交流を図っていく予定がある。	現在予定している地域の活動に参加したり、区長の協力を得ながら、災害時の地域の施設としての役割をふまえて相互の協力関係を築いていくことに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナが5類に移行してから当センターでコロナのクラスターが出たり、地域の人々に向けての貢献や交流は行えていないが、今後認知症予防体操等の介護相談を行っていきたい。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	12月7日に運営推進会議を対面で行い、市役所の介護サービス課の方や、区長、民生委員、ご家族様代表、ご入居者様代表にご参加いただき、ご意見をいただけたので今後の取り組みに反映させたい。	昨年12月から対面での運営推進会議を再開した。地域役員の出席もあり、災害時の避難場所のあり方等事業所の課題についても取上げた話し合いをもっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃より市の介護サービス課、保健センターとは連携を図り、必要時には報告、相談を行っている	利用者の生活支援のために、日頃から市担当者と連携を図っている。具体的には近隣にある保健センターに管理者が直接出向いて、各予防接種の相談を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化・虐待防止委員会を3ヶ月に1度行っている。毎月のGH会議で研修や不適切ケアの分析を行い、会社を上げて身体拘束・虐待防止に取り組んでいる。	身体拘束をしないケアや虐待防止のために、法人や事業所、委員会で研修会を実施している。研修では、虐待のグレーゾーンをテーマとした動画を見たり、チェックリストを実施して、日々のケアの振り返りも行ったりしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社内での毎月の研修や月に1度の協議会で研修や勉強会を行っている。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前ご入居されていた方が成年後見人制度をご利用されており、学ぶ機会があった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約は時間をかけ、1つ1つ疑問が無いか確認をしながら説明させていただき、納得された上で署名捺印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者様やご家族様とのコミュニケーションは日頃から大切にしており、面会時やお電話にてご意見をいただき、頂いたご意見は早急にサービスに反映させている。	利用者や家族から面会や外出の要望があり、困難である時は、職員がビデオ電話をつないだり手紙の代筆をしたりして、家族との交流を支援している。また、今年の年末年始から体調管理に留意しながら、希望の外出や外泊の支援を始めた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝・夕の申し送りや、全体会議、GH会議、などで、職員の意見を聞く機会を持ち、何でも話し合える環境にある。また、職員からの要望や提案は迅速に対応している。	職員から重度化した利用者の対応に関する意見が出され、管理者は、その対策や夜勤者のストレス軽減を図る対応に取り組んでいる。定期的にアンケート、面談を実施し職員の意見を聞く機会を設けて、必要な職員配置を行う等の対応をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に数回個人面談を行い、個人の業務の振り返りや、個人目標の達成度をヒヤリングし、職場環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社を上げて人材育成に力を入れており、入社時研修やOJTによって人材育成行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	対面での北関東エリア合同の勉強会やZoomを使った研修や会議は年に数回あり、他県での取り組みの情報を収集し、参考にさせていただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様、ご家族様からの聞き取りを丁寧に行い、心配事や、ご希望等聞き取り調査を行い、職員と情報共有し安心して生活出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時や契約時にご家族様の心配な点やお困りごとを聞き取り調査し、密に連絡を取り、少しでも不安解消出来る様努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様、ご本人様からお話を聞き、必要としている支援に合ったサービスが受けられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者様の生活歴や個性を大切にし、ご自分で出来る事は出来る限りご自分でして頂く。出来ない事はサポートし、共に寄り添って暮らして行ける信頼関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居者様、ご家族様が安心して生活出来るように、ビデオ通話や、お手紙を活用し、近況報告行う事で信頼関係を築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居者様のこれまでの生活歴を傾聴し、ご本人様の希望に沿った友人・知人との面会をサポートしたり、ビデオ通話や、お手紙を送り関係が途切れない努力を行っている。	利用者の要望に応じて、幼馴染みの人との面会や家族と自宅への外出が出来るよう支援をしている。また、入居前の趣味等である編み物や折り紙が再開できるよう、材料の調達を行い、法人の文化祭に出品する支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様同士の間人間関係が円滑になる様に、職員が見守り、関わり合い支えあえる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても必要に応じて相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思い出や希望を聞き取り、可能な限り意向に添える様努めている。	利用者と日常会話をする中から、生活に対する意向や希望の把握を行っている。特に食についての希望は、昔話の会話からヒントを得ている。意向を表出できない利用者には、好きな物が選択出来るよう働きかけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査時や入所時にご家族様・ご本人様から出来るだけ詳しく聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活状況・心身の状態等細かく記録に入力する事で職員間での情報共有が行えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝・夕2回毎日の申し送りや毎月の会議で報告、相談を行い、ご本人様・ご家族様に意見を聞きながらその時の状況に応じた介護計画書を作成している。	ケアマネジャーが作成したケアプランのサービス支援内容を、タブレットに反映している。職員が毎日チェックをしたものを集計し、更に話し合いを経て見直しをしている。利用者家族には、面会時にケアプランに対する意見を伺い、反映をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を細かく記録として入力する事で、ケアプランのサービス内容に沿って毎日モニタリング行っている。また、気が付いた事等申し送りノートや介護日誌に書き込み、職員間で情報を共有しながら実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調不良時の通院や・内服薬依頼・受け取り・入退院の付き添い等個々の希望に沿ったサービスの提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事参加は今後参加していく予定。馴染みの店での買い物や思い出を傾聴し安心してその方らしい生活が出来る様努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との密な連絡・相談・報告を行う事で定期往診・夜間・緊急時24時間対応して頂いている。	利用者、家族の意向で24時間対応可能な往診医の定期受診に加えて、認知症専門医の受診は、職員が付添う支援をしている。また誤薬防止のため、薬局とアプリを共有して、連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護サービスみなみと契約しており、週に1度の訪問にてご入居者様の健康管理を行っている。相談、助言等24時間対応にてご入居者様が適切な受診、看護を受けられるよう対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入居者様の入院時は安心して治療に専念出来る様、ご家族様・病院関係者様と密に情報交換し、早期退院出来る様関係作りに取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご本人様・ご家族様を含めて、重度化や終末期について説明し主治医より看取り期との診断があった時に再度ご家族様と協議し方針を共有していく。	入居契約時に看取りの意向確認をし、更に必要時に再度本人、家族と相談をして対応を決めている。今まで1名、看取りを行った。その際には、職員研修を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修を行い、急変時の対応、感染症に対する処置等学び訓練している。急変時のフローも事務所の目立つところに掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練にてご入居者様の避難方法や消火訓練は行っている。地域の方にも運営推進で協力体制依頼行っている。	事業所では、火災に対する避難対応に重きを置いて、特に夜間は、同敷地内にあるショートステイ施設との連携を計画している。今後は、近隣住民の協力が得られるよう、地域役員に働きかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、その方の性格等を把握し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を行っていく。	排せつの声掛けは小声で行い、歩行練習の呼び掛けに変換する工夫をしている。食事中に排せつの話をしないようにしたり、自尊心を傷つけることが無いように管理者は注意を払っている。また、記録をペーパーレス化して、利用者の目に触れないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者様が気兼ねせず、希望や思いを発言出来る様日頃からコミュニケーションを密に取り、自己決定が出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者様一人一人の体調、気分を把握し、その日どう過ごしたいのかご希望に沿った介助が出来る様心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族様にご協力いただき、ご本人様の好む服装やお化粧品を用意していただき、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に嗜好調査を行い、メニューの希望を取り入れたり、お取り寄せランチや手作りおやつを行い、ご入居者様もお手伝いしていただき全員が楽しく参加出来る取り組みを行っている。	月に1度、嗜好調査を実施して、リクエストメニューを提供している。また、お取り寄せランチやおやつ等、利用者の意向を柔軟に反映している。利用者が野菜の下ごしらえやテーブル拭きの参画ができる声掛けを実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量・水分量も記録を入力し、情報共有出来ており、足りていない方には1日を通して必要量摂取していただくようお願い、支援行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の能力に応じて、一部介助やお声がけ、誘導等行っている。ご自身で出来ない方は職員が仕上げ磨きを行い、口腔内清潔保持に努めている。毎週歯科医の訪問診療もあり、口腔内清潔保持出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、個々の能力に応じた排泄介助を行う事で自立に向けた支援を行っている。	日々の排せつ習慣を記録して、把握に努めている。可能な限りトイレでの排せつを目指して、声掛けの時間調整も試みており、パットやオムツ代の費用負担軽減を図る効果にもつながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた便秘予防対策行っている。軽体操支援や食物繊維の多い食べ物の摂取。水分量のチェック。必要に応じて主治医相談にて内服薬処方。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご入居者様本位で入浴のお声がけを行い、好きな入浴剤を選んでいただき、リラックスして入浴していただけるよう支援行っている。。	利用者の希望に沿った入浴ができるように、毎日入浴できる体制を作っている。また、好みの入浴剤やシャンプーを準備をしている。入浴を拒否する利用者は、家族に協力を依頼して、実施につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息や十分な睡眠が取れるように衣類、居室温度管理、足浴等行い、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご入居者様一人一人の服薬情報はPC・iPadで確認でき、毎日の状態変化は申し送り報告、出来ている。訪問薬剤師が週に1回服薬支援して下さっている。服薬支援システムを導入し誤薬事故防止にもなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方にあった趣味支援で気分転換を行っている。お手伝いして下さる方にはありがとう感謝の気持ちを伝える事で信頼関係が築けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様、のご協力にてご入居者様の行きたい場所等外出行っている。	天候が良ければ近くの公園に散歩に出掛けられている。また、ベランダに出て草花の水やりや日光浴をして、外気に触れる機会を作っている。家族の協力を得て、自宅を見に行けるよう支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理できるご入居者様にはご自分で欲しい物を購入できるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りや、ビデオ通話でのやり取りが頻繁にあり、いつでもビデオ通話出来る様、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアでは、ご入居様がくつろげるようソファやテレビの位置。音量に配慮し、ベランダでは季節の花を育てている。	食堂兼ホールは、1日の大半を過ごす場所なので、温度や湿度調整に留意したり、雑誌が手に取れるよう備えたりしている。この他、起床時や食事に合うBGMを流したり、季節の花を飾る等環境整備の工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆったり過ごせるように腰掛けやテーブル、ソファを配置し自由に心地よく過ごせるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使っていた馴染みのある家具、ご主人の遺影等持ち込み安心出来る居室作りに努めている。	事業所の備品以外は、好きなものを持ち込み、それぞれ好みの居室にしている。居室担当職員が、利用者と家族の協力を得ながら居室の環境整備を行っている。物にストレスを感じる利用者には、何も置かない空間を維持する支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご入居者様の安全、安心に心掛け調理のお手伝いやシーツ交換、居室掃除等職員と一緒にいき、自立した生活が送れるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

ハナミズキ

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念は毎日、社長メールに記載されており、社員全員が目に見えている。太田GHの理念は毎日の朝・夕の申し送りを行う場に掲示し、唱和する事で理念を意識し、実践につなげる努力をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所の方へのお声がけ、地区の民生委員さんや、区長さんと相談し、クリーン作戦等の地域の美化活動参加にて交流を深めていきたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナが5類に移行してから当センターでコロナのクラスターが出たり、地域の人々に向けての貢献や交流は行えていないが、今後認知症予防体操等の介護相談を行っていききたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	12月7日に運営推進会議を対面で行い、市役所の介護サービス課の方や、区長、民生委員、ご家族様代表、ご入居者様代表にご参加いただき、ご意見をいただけたので今後の取り組みに反映させたい。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃より市の介護サービス課、保健センターとは連携を図り、必要時には報告、相談を行っている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化・虐待防止委員会を3ヶ月に1度行っている。毎月のGH会議で研修や不適切ケアの分析を行い、会社を上げて身体拘束・虐待防止に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社内での毎月の研修や月に1度の協議会で研修や勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前ご入居されていた方が成年後見人制度をご利用されており、学ぶ機会があった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約は時間をかけ、1つ1つ疑問が無いか確認をしながら説明させていただき、納得された上で署名捺印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者様やご家族様とのコミュニケーションは日頃から大切にしており、面会時やお電話にてご意見をいただき、頂いたご意見は早急にサービスに反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝・夕の申し送りや、全体会議、GH会議、などで、職員の意見を聞く機会を持ち、何でも話し合える環境にある。また、職員からの要望や提案は迅速に対応している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に数回個人面談を行い、個人の業務の振り返りや、個人目標の達成度をヒヤリングし、職場環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社を上げて人材育成に力を入れており、入社時研修やOJTによって人材育成行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	対面での北関東エリア合同の勉強会やZoomを使った研修や会議は年に数回あり、他県での取り組みの情報を収集し、参考にさせていただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様、ご家族様からの聞き取りを丁寧に行い、心配事や、ご希望等聞き取り調査を行い、職員と情報共有し安心して生活出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時や契約時にご家族様の心配な点やお困りごとを聞き取り調査し、密に連絡を取り、少しでも不安解消出来る様努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様、ご本人様からお話を聞き、必要としている支援に合ったサービスが受けられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者様の生活歴や個性を大切にし、ご自分で出来る事は出来る限りご自分でして頂く。出来ない事はサポートし、共に寄り添って暮らして行ける信頼関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居者様、ご家族様が安心して生活出来るように、ビデオ通話や、お手紙を活用し、近況報告行う事で信頼関係を築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居者様のこれまでの生活歴を傾聴し、ご本人様の希望に沿った友人・知人との面会をサポートしたり、ビデオ通話や、お手紙を送り関係が途切れない努力を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様同士の間人間関係が円滑になる様に、職員が見守り、関わり合い支えあえる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても必要に応じて相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思い出や希望を聞き取り、若年性の方から100歳の方もいらっしゃるので幅広く対応出来る様努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査時や入所時にご家族様・ご本人様から出来るだけ詳しく聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活状況・心身の状態等細かく記録に入力する事で職員間での情報共有が行えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝・夕2回毎日の申し送りや毎月の会議で報告、相談を行い、ご本人様・ご家族様に意見を聞きながらその時の状況に応じた介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を細かく記録として入力する事で、ケアプランのサービス内容に沿って毎日モニタリング行っている。また、気が付いた事等申し送りノートや介護日誌に書き込み、職員間で情報を共有しながら実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調不良時の通院や・内服薬依頼・受け取り・入退院の付き添い等個々の希望に沿ったサービスの提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事参加は今後参加していく予定。馴染みの店での買い物や思い出を傾聴し安心してその方らしい生活が出来る様努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との密な連絡・相談・報告を行う事で定期往診・夜間・緊急時24時間対応して頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護サービスみなみと契約しており、週に1度の訪問にてご入居者様の健康管理を行っている。相談、助言等24時間対応にてご入居者様が適切な受診、看護を受けられるよう対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入居者様の入院時は安心して治療に専念出来る様、ご家族様・病院関係者様と密に情報交換し、早期退院出来る様関係作りに取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご本人様・ご家族様を含めて、重度化や終末期について説明し主治医より看取り期との診断があった時に再度ご家族様と協議し方針を共有していく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修を行い、急変時の対応、感染症に対する処置等学び訓練している。急変時のフローも事務所の目立つところに掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練にてご入居者様の避難方法や消火訓練は行っている。地域の方にも運営推進で協力体制依頼行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、その方の性格等を把握し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居様が気兼ねせず、希望や思いを発言出来る様日頃からコミュニケーションを密に取り、自己決定が出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居様一人一人の体調、気分を把握し、その日どう過ごしたいのかご希望に沿った介助が出来る様心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族様にご協力いただき、ご本人様の好む服装やお化粧品を用意していただき、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に嗜好調査を行い、メニューの希望を取り入れたり、お取り寄せランチや手作りおやつを行い、ご入居者様もお手伝いしていただき全員が楽しく参加出来る取り組みを行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量・水分量も記録を入力し、情報共有出来ており、足りていない方には1日を通して必要量摂取していただくようお声がけ、支援行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の能力に応じて、一部介助やお声がけ、誘導等行っている。ご自身で出来ない方は職員が仕上げ磨きを行い、口腔内清潔保持に努めている。毎週歯科医の訪問診療もあり、口腔内清潔保持出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、個々の能力に応じた排泄介助を行う事で自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた便秘予防対策行っている。軽体操支援や食物繊維の多い食べ物の摂取。水分量のチェック。必要に応じて主治医相談にて内服薬処方。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご入居者様本位で入浴のお声がけを行い、お好きな入浴剤を選んでいただき、リラックスして入浴していただけるよう支援行っている。。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息や十分な睡眠が取れるように衣類、居室温度管理、足浴等行い、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご入居者様一人一人の服薬情報はPC・iPadで確認でき、毎日の状態変化は申し送り報告、出来ている。訪問薬剤師による週に1回服薬支援あり。服薬支援システムを導入し誤薬事故防止にもなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方にあった趣味を提供する事で気分転換を行っている。脳トレ・クロスワードパズル・読書・塗り絵・折り紙等一人一人のお好きな物を提供出来る様努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様のご協力にて、ご入居者様の行きたい場所等外出行えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理できるご入居者様にはご自分で欲しい物を購入できるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りや、ビデオ通話でのやり取りが頻繁にあり、いつでもビデオ通話出来る様、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの壁面にはご入居者様が作った季節の壁面飾りを飾り、ソファーやテレビを配置しくつろげる空間を意識している。ベランダでは季節の花を育てている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆったり過ごせるように腰掛けやテーブル、ソファーを配置し自由に心地よく過ごせるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使っていた馴染みのある家具、ご主人の遺影等持ち込み安心出来る居室作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご入居者様の安全、安心に心掛け調理のお手伝いやシーツ交換、居室掃除等職員と一緒に、お元気な方の施設内移動はリハビリを兼ねて職員と一緒に階段で移動したり、自立した生活が送れるよう支援している。		